

**6/8(金)開催「LANDSCAPE –SHIBUYA 2018–/TOKYO MUSIC ODYSSEY 2018」
フレデリック、DATS、Luby Sparksの3バンドが気鋭のクリエイター陣とタッグ！
最新技術を駆使した特別な演出で、「いまの渋谷」を表現する一夜限りのスペシャルライブを披露**



Photo by 高田梓

日本最大の音楽専門チャンネル スペースシャワーTVは、「都市と音楽の未来」がテーマの複合型音楽フェスティバル「TOKYO MUSIC ODYSSEY 2018」を6/8(金)～10(日)の期間、渋谷各所で開催しております。
初日6/8(金)にShibuya WWWで行ったスペシャルライブイベント「LANDSCAPE –SHIBUYA 2018–」にはフレデリック、DATS、Luby Sparksの3バンドが出演。最新技術を駆使した映像、照明を操るクリエイター陣とともに、一夜限りの特別なライブを行いました。

フレデリックは、先日の神戸の世界記念ホール公演でもタッグを組んだクリエイティブチーム・INTとともに、その余韻冷めやらぬ中、キャバ500人という異例のライブハウス規模でコラボレーションを再現。
DATSは、国内外のファッションショーなどの照明演出も手がけるPARとコラボレーション。親交のある新鋭フォトグラファー・小林真梨子が映す渋谷の景色も演出に加わりました。
Luby Sparksは、普段からアートワークなどを手掛けているharune.hとタッグを組み、バンドの世界観をグラフィックでガーリーに表現しました。

つきましては、ライブの様様をライブレポート・ライブ写真素材でお送りいたしますので、是非、貴媒体で取上げていただけますと幸いです。ご検討の程、何卒宜しくお願いいたします。

「LANDSCAPE –SHIBUYA 2018 –」公演詳細

公演名：LANDSCAPE –SHIBUYA 2018–
LINE UP：フレデリック × INT / DATS × PAR / Luby Sparks × harune.h
開催日時：6/8(金)
OPEN / START：18:00 / 19:00
開催場所：Shibuya WWW X
ADV./DOOR：¥3,500 / ¥4,000 (税込 / ドリンク代別 / オールスタンディング)
SPONSOR：ファミリーマート
PRODUCTION：SPACE SHOWER TV / INT
INFORMATION：WWW X 03-5458-7688

＜本件に関するお問い合わせ先＞

株式会社スペースシャワーネットワーク コンテンツマーケティング部
TEL：03-3585-3544 FAX：03-3585-3215
担当：北村由衣子 kitamura@spaceshower.net

<ライブレポート>

スペースシャワーTV主催のイベント「LANDSCAPE-SHIBUYA 2018-」が6月8日に東京・Shibuya WWW Xにて開催された。イベントのコンセプトは、“今ここにしかない”音・街の姿・スタイルを、ストリート写真や映像、空間の演出で、2018年の記憶に刻みつけること。今回はフレデリック、DATS、Luby Sparksという際立つ個性を持った3バンドが、それぞれクリエイターとコラボレーションしたスペシャルなステージを披露した。

トップバッターは新世代のシューゲイザーバンド・Luby Sparksだ。今回はバンドの全ア트워크を手がけるharune.hがVJを務める特別編成。客電が落ちると、彼女の手がけたナードでガリーな映像がバックスクリーンいっぱい映し出される。そして、赤髪の新メンバー・Erika(Vo)やフェミニンなNatsuki(B,V)らが、映画の登場人物のようにステージに現れた。

harune.hの映像に彩られたメンバーは、1stアルバム「Luby Sparks」から「Intro」「Sparks」「Thursday」「The Short Lived Girl」「Tangerine」をプレイ。彼女たちの奏でる美しいメロディと不安定でけたたましいフィードバックノイズから、若者にしか表現できない繊細さを感じることができた。さらに今回は、パーカッシブな新曲に加え、Mazzy Star「Look On Down From The Bridge」のカバーも披露。ラストは、明滅する照明とドラマチックな演奏が交差する激しいパフォーマンスを見せてくれた。

2番手には、6月20日にメジャーデビューアルバム「Digital Analog Translation System」のリリースを控えるDATSが登場した。彼らは、舞台転換のBGMで流れていた四つ打ちのテクノのBPMに合わせて、1曲目のインストナンバー「Search」をスタートさせる。

バックスクリーンには最新作のジャケットにフィーチャーされたバンドロゴが映し出された。そこに新鋭フォトグラファー・小林真梨子が撮影した渋谷の風景写真がカラージュされる。演出を担当したPARはDATSのビートに合わせて、いまの渋谷のさまざまな姿を見せていった。

DATSのサウンドはクールだが、演奏やパフォーマンスはファンキーでダイナミックだ。「404」「Mobile」「Memory」「Dice」「Heart」はデベッシュ・モードやアンダーワールドを彷彿とさせる。ラストの「Message」ではメンバー全員がドラムを叩くという、派手なパフォーマンスで観客を圧倒した。

トリを飾ったのは、個性的な実力派バンドのフレデリック。双子の兄弟である三原健司(Vo,G)と康司(B,V)、赤頭隆児(G)、高橋武(D)の4人は、登場するといきなり「KITAKU BEATS」「リリレポート」でタイトでファンキーな演奏を見せつけた。

さらに三原健司の「本日はフレデリックとアートクリエイティブ集団・INTとのコラボレーションをお楽しみください」というMCとともに、CGを駆使した怒涛の演出がスタートする。INTは「ナイトステップ」で、音とCGオブジェクトが反応するシステムを駆使してステージを彩り、「パラレルロール」ではライブ映像にリアルタイムでエフェクト加工して見せた。

INTの刺激的な演出に応えるようにフレデリックの演奏も熱を増していく。新曲「飄々とエモーション」ではレーザーに映える、バブリーなアクションで会場を沸かせた。さらに「オンリーワンダー」ではメンバーが燃えるアツいCG加工も。楽曲の世界観に没入できるこだわりの演出で、「TOGENKYO」まで一気に8曲を駆け抜けた。

すると本編終了後にファンからアンコールを求める声援が巻き起こる。再びステージに上がったフレデリックは、本来プレイする予定ではなかったという「オドループ」でイベントを締めた。

なお「LANDSCAPE」は、渋谷を舞台にした複合型音楽イベント「TOKYO MUSIC ODYSSEY 2018」の1つ。さらに6月9、10日にかけて「JAPANESE THINGS」「SCRAMBLE 1、2、3」などのイベントが各ヴェニューで開催される。

(取材・文 = 宮崎敬太 / 撮影 = 高田梓)

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社スペースシャワーネットワーク コンテンツマーケティング部

TEL : 03-3585-3544 FAX : 03-3585-3215

担当 : 北村由衣子 kitamura@spaceshower.net